

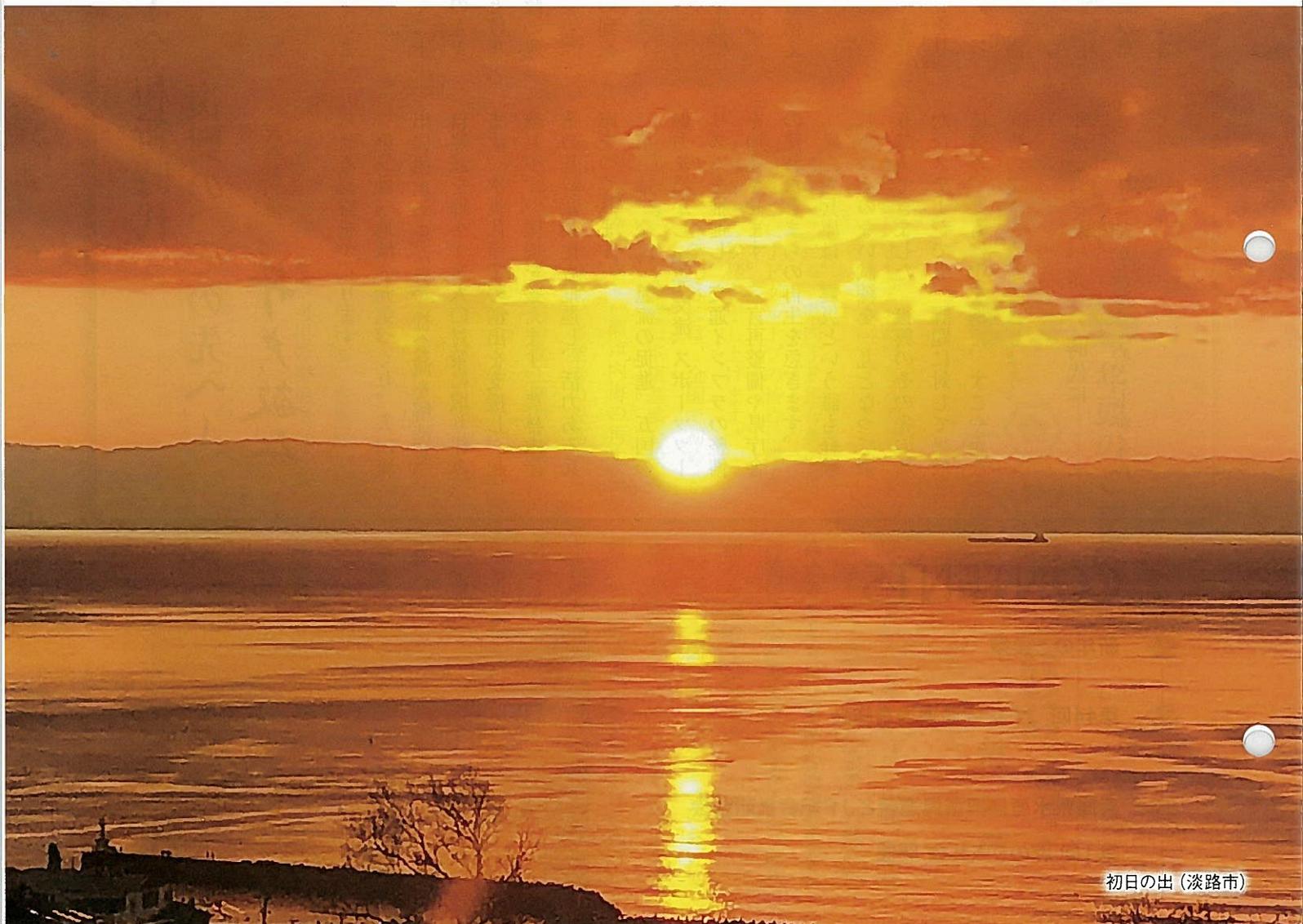
たぐすい

TAKUSUI
No. 759

1
January, 2020

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



初日の出 (淡路市)

令和2年 年始のご挨拶 JF兵庫漁連 通常総会開催

《今月の海上安全標語》～ 明けましておめでとうございます!～

今年は水産業にとってよい年になり、海難事故ゼロの年となりますように……

安全が 危険に変わる 慣れと油断 では、今年も安全操業で!



令和新時代

復興の、その先へ

兵庫県知事

井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

阪神・淡路大震災から間もなく二十五年を迎えます。この間、国内外の人々が驚くほどの創造的復興をなしとげました。しかし、危機に陥った財政の建て直しに取り組まざるを得ないなど、苦難の連続でした。令和の時代の到来とともに、新たなステージへのスタートを切る環境が整いました。

二十五年の節目を機に改めて原点に立ち返り、震災の経験や教訓を忘れず、伝え、これを活かし、しっかりと備えていきます。

この安全安心の基盤の上に、二〇三〇年の展望の具体化を図り、すこやか兵庫づくりに取り組み、未来へのシナリオをしっかりと進めていきます。

第一は、安全安心な兵庫の構築。南海トラフ地震や風水害へ備え、安全な県土を築きます。二〇二五年問題に対応するための在宅医療・介護体制の充実や地域医療の確保など、安心して暮

らせる基盤をつくります。

第二は、地域の元気づくり。人口流出に歯止めをかけ、社会減を解消し、自然減を縮小する人口対策に取り組めます。次世代産業の創出を支援し、起業しやすい環境を整えます。農林水産業の基幹産業化も推進し、活力ある兵庫をつくります。

第三は、交流・還流の促進。五国の魅力を活かし、観光交流、スポーツツーリズムを推進し、交通インフラの整備を加速させます。三宮再整備や県庁舎の建替などまちの再生を急ぎます。

私たち兵庫は、震災という誰も経験したことのない試練を丸となって乗り越えてきました。復興のその先の新たなステージでも、課題に対して果敢に挑み、ともに手を携え、すこやかな兵庫の実現をめざしましょう。

平成から令和へ新たな時代に

すこやか兵庫をめざし歩まん

CONTENTS

No.759 January, 2020

- 2 新年のご挨拶
- 7 第44回 JF兵庫漁連通常総会
- 8 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
第1回 乾のり入札会 開催
- 9 令和元年度「ひょうご海の子作品展」作文部門
- 10 兵庫JCC通信
- 11 旬に想う
大輪田塾だより
- 12 令和元年度「ひょうご海の子作品展」絵画部門



表紙の言葉

「初日の出」(淡路市)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

表紙の画像は、元日に淡路市から見た初日の出の様子です。

令和になり初めての年明けとなりましたが、令和には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という願いが込められているそうです。

本県の漁業・魚食文化が未来に向け、ますます育つよう願います。

新年のご挨拶



年頭のご挨拶



兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長

田沼政男

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、県内JF組合員の皆様ならびにJFグループの皆様にご挨拶を申し上げます。

さて、昨年10月には、全国で初めて窒素濃度、リン濃度に下限基準を設定し、「豊かで美しい瀬戸内海の再生に努めることは県民、事業者の責務」として盛り込んだ条例の改正案が兵庫県議会で可決・成立いたしました。JFグループが一丸となり、豊かで美しい海の再生に取り組んできた成果が現れたものと考えています。

また、2021年には、水産資源の保護・管理と海や河川的环境保全に対する意識の高揚を図ることを目的とした、「全国豊かな海づくり大会」が本県明石市で開催されます。我々JFグ

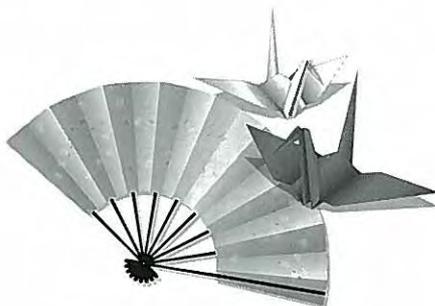
ループといたしましては、国民、県民に対して、豊かな海と漁業への関心を高めるとともに、本県水産業の更なる発展につながる大会となるよう、取り組みを進めて参ります。

一方、全国のJFグループにおいては、一昨年に行われた漁業法改正を受け、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革が始まりました。昨年11月にJF全国代表者集会において、「漁業者自らが進める浜の構造改革」、「漁業の改革を支えるJFグループの改革」、「新たな制度等への的確な対応」、「地域社会・地域漁業への貢献」を4つの柱としたJFグループ次期運動方針が決議されました。

本会としても、漁業者とともに自らの役割と使命を再確認し、水産業の成長産業化に向けた浜の構造改革を進

め、組織の総力を上げて取り組んで参りますので、会員の方々のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、県ご当局をはじめ、関係団体のご指導・ご支援をお願い申し上げます。

2020年は東京で2回目となるオリンピックが開催されます。又、「子年」は再び新しい十二支のサイクルがスタートする年でもあり、「子年は繁栄」という格言もあります。新たに始まった令和の時代の記念すべき年として、本県漁業が活気に溢れ、夢膨らむ縁起の良い年となりますよう皆さまのご繁栄とご健勝を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。





年頭のご挨拶

ながさき信用漁業協同組合連合会
経営管理委員会 会長

中川 照央

新年あけましておめでとうございま
す。
年頭にあたり、会員並びに組合員の皆
様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年を顧みますと、大雨による河川の
氾濫によって人命が奪われる事態が全国
各地で相次ぎました。

本会管内（兵庫・和歌山・徳島）は
幸いにも大きな被害は免れましたが、毎
年のように発生する自然災害について
は、最早想定しておくべきものであり、
一人一人が自分の身の安全を守る「自助」
の考えのもとに日常的な備えが肝要と改
めて認識するところであります。

さて、日銀は追加緩和策の有力な「次
の一手」として、マイナス金利の深掘り
を視野に置いているとの見方もあり、現
在の金融政策はさらなる低下余地を探り
つつ、長期化の様相を呈しており、金融
正常化の兆しすら見えません。

この情勢を背景に金融機関の運用環境
は一段と悪化してきており、長短金利差
で稼ぐとする金融機関の伝統的な収支構
造が機能しなくなりつつあります。

本会は、この難局を乗り切り漁業系統
金融機関としての役割を発揮し続けてい
くため、本年から「持続可能な新ビジネ
スマデル構築」に向けての改革に本格着
手してまいります。

新ビジネスモデルを「過去のやり方に
捉われることなく、限られた経営資源を

有効に活用し、収支均衡
を図りながら未来に向か
い漁業の発展と漁業者の
生活向上に貢献すること
ができる組織運営形態」と
定義づけ、漁家経営支
援の原点に立ち返り、県
漁連等系統団体・漁協と連携を取りなが
ら、円滑な事業承継のためのアドバイス
や漁業周辺産業との取引深耕等の施策を
実施してまいります。

これを実践するためには、先ず経営環
境の変化に対応しつつ、財務の健全性と



新年のごあいさつ

兵庫県漁業共済組合
組合長理事

川越 一男

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
新春にあたり、皆様の本年のご多幸を
心よりご祈念申し上げます。

今年には東京オリンピック・パラリン
ピックの年ということもあり、世界中か
ら観光客が訪日することで経済効果も見
込まれております。この流れを契機とし
て、水産物については、大会が求める調
達基準を満たす国内水産物の供給を目指
す取り組みが行われるなど、水産物の需
要の高まりに期待が寄せられています。

漁業共済組合としまして、「ぎよさい」
と「積立ぶらす」が漁業経営の大きな支
えとして全ての漁業者の方々に活用して
いただくことで漁業の活性化のお手伝い
ができるよう、心を新たにしております。
ご参ります。

安定利益を確保できる体制づくりが不可
欠となります。

具体的には、ながさき発足以来取り組ん
できた推進体制を進展させ、事業量を伸
ばすと同時に低コスト運営の一環として、
店舗機能を見直すこととしております。

実施にあたっては利便性を損なうこと
のないよう、サービス低下を補完する措
置を最大限講じてまいります。

また、水産政策面では、2020年度
水産予算で漁船リース事業に積み増しが
成され、2年連続で3000億円が手当
てされました。

さて、昨年を振り返り
ますと、台風、豪雨によ
る甚大な被害が各地で起
き、自然の脅威を強く感
じる1年となりました。

当県も海況異変によると
思われるイカナゴの記録
的な不漁などもあり、漁業経営のセーフ
ティーネットとしての「ぎよさい」と「積
立ぶらす」の重要性を改めて認識すること
になりました。被害にあわれた方々には、
心よりお見舞いを申し上げますとともに、
一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

このような中、国は漁業の成長産業化
と資源管理を両立させ、漁業の再興を図
ることを目的に、一昨年、漁業法を70年
ぶりに改正しました。そして、この改正
漁業法の下で適切な資源管理等に取り
組む漁業者の経営安定のためのセーフ
ティーネットとして、「漁業収入安定対
策事業の機能強化と法制化」を進めるこ
ととしており、その動向が注目を集めて
います。

また、JFグループは、来年度から掲

これに呼応し、浜の構造改革に必要な
漁船や省コスト化機器導入のための資金
調達面における支援については、万全を
期すことはもとより、漁家ライフプラン
に応じた提案型営業にも注力してまいり
ます。

最後に、「愛される浜の金融機関」と
しての確立を目指し、役員員一丸となっ
て業務に取り組んでまいっている所存です
で、本年も倍旧のご指導とご鞭撻をお願
いするとともに、皆様方のますますのご
健康、ご活躍をお祈り申し上げます。新年の
挨拶とさせていただきます。

さて、平成29年度から実施して参りまし
た「ぎよさい」で安心・ぶらすで万全」を
スローガンとした「ぎよさい普及推進全
国運動」は最終年を迎え、今年度の目標
として共済金額295億円、漁業者積立
額約8億円、平均契約割合88%を掲げ加
入推進に取り組む本運動も残すところ後
3ヶ月間となりましたが、この計画達成
に向けて事業の普及に努めて参ります。

最後になりますが、4月からは新たな
スローガンの下で「ぎよさい普及推進全
国運動」を実施する予定としております。
「ぎよさい」と「積立ぶらす」の未加入
解消を目指して、より一層の加入拡大に
取り組む所存ですので、本年も皆様の変
わらぬご支援・ご協力を賜りますようお
願い申し上げます。

また、JFグループは、来年度から掲



新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長

長島 浩

ればなりません。
一方、県ではより適切
な栄養塩の管理を目指す
ために、昨年、「環境の
保全と創造に関する条
例」を改正し、豊かな生

新年明けましておめでとうございます。
皆様方には清々しく新年をお迎えのこ
とと心よりお喜び申し上げます。

昨年5月に令和の時代が幕を開けまし
たが、様々な出来事があった一年でし
た。特に国内では、大型台風の直撃に伴
う記録的な大雨や暴風により、東日本を
中心に多くの地域で甚大な被害がもたら
され、災害への備えや防災意識の重要性
を改めて考えさせられました。一方、国
外では、米国と中国の貿易戦争や日韓関
係の悪化、北朝鮮のミサイル発射や不法
操業問題など、依然として国際情勢は先
行きが不透明な状態が続いています。

水産業界も一昨年の12月に70年ぶりに
漁業法が大幅に改正されたことにより、
大きな転換期を迎えています。国では、
漁業法改正に伴う政省令等の整備が進め
られているところですが、いよいよ本年、
本格的な運用が始まります。今後とも国
の動きを注視しながら、本県水産業の将来
にとってこのたびの水産政策の改革が実
りあるものとなるよう対応していかなく

態系を確保するうえで望ましい栄養塩の
濃度として、全国で初めて窒素とリンの
下限値を定め、さらにBODの上乗せ排
水基準を見直しました。

また、令和3年に第41回全国豊かな海
づくり大会を明石市で開催することが決
定しました。大会では、「豊かな海の創出」
に取り組む本県の姿を全国に発信し、そ
の取組の輪をさらに広げ、水産業の一層



新年のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター所長

平石 靖人

の振興・発展を図るとともに、ひょうご
五国の豊かで多彩な魅力を全国に発信す
るため、皆様と一丸となって準備を進め
てまいります。

豊かで美しい海の実現を目指し、海域
の栄養塩管理の推進やつくり育てる漁業
の推進に一層努めてまいりますので、今
後ともご協力をお願い申し上げます。

新たな年の始まりとともに、本県水産
業が益々発展し、未来に向かって力強く
前進されますことと、新しい年も平穏で
安全な操業が続き、豊かな海の幸に恵ま
れますことを心より祈念いたしまして、
新年のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、気分新たに清々しい新春をお
迎えることと心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年は、「命を守る行動」の言
葉に代表される大規模な災害が相次ぎ、
「ONE TEAM」の精神がクローズ
アップされる年になりました。本県の漁

業について顧みますと、
瀬戸内海のノリ養殖業で
は、全国的な不作の影響
もあり平均単価は、平成

期間中の最高値を更新す
る結果となりました。日
本海においても、沖合底びき網漁業では
魚種によってはばらつきはあるものの、好
調な単価に支えられ堅調でした。その一
方で、瀬戸内海のイカナゴについては、
ここ数年極端な不漁となっており、小型
底びき網漁業においても厳しい状況が続
いています。また日本海では、スルメイ
カの来遊が不安定な状況になっています。

このような中、当センターにおいては、
「水産業の競争力強化に直結した技術開
発」と「食・自然環境の両面から県民の
安全を守る技術開発」を重点項目として、
本年も様々な課題に取り組んでまいりま
す。

瀬戸内海では、「栄養塩と水産資源と
の関連性」を明らかにする調査・研究結
果を3月までにとりまとめ、1つでも多
くの科学的根拠を示します。また、貝毒
リスクの低減手法の開発、環境変化に対
応した藻類養殖に加え、「閉鎖性循環飼
育システム」を活用した「ご当地サーモ
ン」養殖等についても調査研究・技術開
発を一層推進していきます。

日本海では、「但馬沖ホタルイカの漁
場形成」や「ベニズワイガニの高鮮度保
持技術」また、沿岸漁業では「イワガキ
の採苗方法」に係る研究開発を推進しま
す。

令和3年の全国豊かな海づくり大会の
機運醸成に向けて、研究成果をより多く
の県民の皆様にご理解していただけるよ
う、情報発信にも努めますので、ご支援
とご協力を賜りますよう、よろしくお願
い申し上げます。

兵庫の海が豊かな恵みをもたらすと
ともに、皆さまにとって実り多い年となり
ますよう祈念申し上げます、新年のご挨拶
といたします。



年頭のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長

前川 広治

新年あけましておめでと〜うございます。皆様には、令和初めての輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

近年、台風や集中豪雨の激甚化、頻発化が顕著になり、全国各地で自然災害が相次いでいます。昨年は、幸い県下の漁港・海岸施設では大きな被害はありませんでしたが、いっどこで起きるかわからない自然災害の危険性を痛感しました。そして、災害に備えて、漁港・漁村で行う基盤整備の必要性が改めて認識されたところです。

こうした中、兵庫県では、将来発生が懸念される南海トラフ地震・津波対策として、平成27年6月に策定した「津波防災インフラ整備計画」に基づき、県南部沿岸において被害を軽減する耐震・耐津波対策を推進しています。また平成31年3月には、「日本海津波防災インフラ整備計画」を新たに策定し、日本海沿岸地域の津波対策に着手しました。これに加えて、平成30年台風第21号で想定を超える高波の影響により大阪湾沿岸で浸水被害が発生したことを踏まえ、今年度末には「兵庫県高潮対策10箇年計画（仮称）」を策定し、効果的、効率的な高潮対策を

推進することとしてい

ます。このほか、漁港施設については、漁業生産活動の効率化・省力化を図るための整備や機能を保全する老朽化対策、航路・泊地の維持対策などに計画的に取り組んでまいります。

さらに、浜の活力再生プランに掲げる所得向上に向けた取組として、ノリ養殖業の収益性向上・競争力強化を図る施設の導入など、国の補助事業を最大限活用



新年のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長

岸 宏

あけましておめでと〜うございます。年頭にあたり、全国の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、昨年も多くの自然災害に見舞われました。その中でも、夏から秋にかけて発生した台風等による被害は甚大であり、被災された会員はじめ関係の皆さま方に衷心よりお見舞い申し上げます。私自身も千葉県の被災地を訪問し、会員並びに関係者皆さまの復興を願うお気持ちによる多額の系統募金をお届けさせていただくとともに国に対し、1日も早い復旧・復興の支援を要請

し、支援に努めてまいります。

本年も、昨年引き続き、兵庫県が誇る水産物を安定的かつ持続的に供給できるように、より一層安全で活力ある漁港・漁村づくりに取り組んでまいりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方にとって実り多い年となりますよう祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

したところであります。現地では復興に向け着実に歩みを進めており、ここに改めまして皆さまの

ご協力に御礼申し上げます。

昨年は、二元号が平成から令和に代わり、漁業界においても大きな変化の年となりました。一昨年末に行われた70年振りの漁業法改正を受け、わが国漁業の成長産業化に向けた本格的な改革が始まりました。この改正にあたり、我々JFグループは現状をしっかりと点検しながら自らの課題として改革に取り組む、「漁業と漁村再生の良い機会としたい」ということを基本に対応して参り、最終的には苦渋の決断ではありましたが、これを受け入れることに致した次第であります。ただし、改革の成果を上げるためには、そ

の実践者である漁業者が本心に理解し、納得できる内容となることが不可欠です。本会では引き続き、国に対し、漁業者が理解し、実践できる内容になるよう求めて参る所存であります。

そして、昨年11月には安倍晋三内閣総理大臣のご臨席の下、全国から1,000名の漁業代表者が参集した「JF全国代表者集会」を開催し、「漁業者自らが進める浜の構造改革」、「浜の改革を支えるJFグループの改革」、「新たな制度等への的確な対応」、「地域社会・地域漁業への貢献」の4つの取り組みを柱に据えた5か年の運動方針をグループ総意の下、採択し、グループ一丸となって組合員の所得向上に向けた改革に邁進することを決議しました。

昨今、サンマやイカ、秋サケ等の大不漁、外国船による違法操業問題などの課題が山積しております。このような状況を踏まえ、我々は、漁業者とともに自らの役割と使命を再確認し、山積する課題に的確に対応しつつ、漁業の成長産業化に向けた浜の構造改革を進め、新たな運動方針の下、組織の総力をあげて取り組んで参る所存です。

最後になりますが、漁業の輝かしい将来を念じつつ、全国各地でご活躍の皆さまの操業の安全と豊漁、ご繁栄・ご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶いたします。



新しい3か年計画がスタート

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長

大井 誠治

「JF共済においては一人ひとりの笑顔のために、協同の原点JF共済3か年計画」のもと、組合員との絆の強化、共済の輪の拡大、共済推進・支援体制の整備、共済の健全性・信頼性の強化、元気で活力のある漁村・地域づくり支援を重点取り組み施策として全戸訪問による保障点検活動を展開しております。2020年度から始まる新たな3か年計画への架け橋となるよう、現3か年計画の総仕上げとして推進本部を中心にJFと一体となり目標達成に向けて邁進していく所存です。

新年あけましておめでとうございませう。新年あけましておめでとうございませう。新年あけましておめでとうございませう。

年頭にあたり、浜の皆様に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

常日頃からJF共済の普及推進活動に格別のご尽力を賜わり、心から厚く御礼申し上げます。

はじめに、全国各地に甚大な被害をもたらした大型台風をはじめ豪雨、水害等の自然災害により被害に遭われた全国各地の漁業関係者ならびに地域住民の皆様に対し、衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、JF共済を取り巻く情勢は頻発する自然災害、人口の減少や高齢化に伴う漁業従事者の減少、地球温暖化をはじめ海洋環境の変化などによる不漁・不安定な国際情勢など、先行き不透明で相変わらず厳しい状況が続いております。

こうした厳しい環境の中、JFグループでは全漁連を中心に「水産日本の復活」を掲げ、浜プランを実行し成果を挙げてまいりました。また、昨年開催された「JF全国代表者集会」では「水産業の成長産業化に向けた改革の実践」JFグループが漁業者とともに自ら拓く浜の未来」を新しい運動方針として、浜の構造改革や漁業所得向上に向けて取り組むことが決議されました。

JF共済は平成29年7月改正の「新くらし」の展開、平成30年7月には「新チョコ」の改正、令和1年7月にも一部改正を行い、様々なニーズに応えるための保障制度作りを行っております。今後は、チョコ・くらしを中心に保有実績の維持・拡大を目指しJFの継続的かつ安定的な事業基盤の確立に努めてまいります。

また、引き続き共済事業経営の一層の健全性強化に取り組むとともに、組合員・地域住民の皆様への負託に応え、ご利用者ニーズにあつた保障制度の提供に努めてまいります。

オリンピックを迎える今年度は、新たな3か年計画がスタートする節目の年となります。浜の保障に万全を期すために様々な取り組みを力強く実施してまいりますので、引き続きご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

JF兵庫漁連 第44回 通常総会 開催

JF兵庫漁連は12月9日(月)、神戸市北野のホテル六甲荘において、第44回通常総会を開催しました。

開会にあたり、田沼政男会長が「44期の本会事業は計画を上回る結果を残せ、会員のご協力・ご支援のおかげと感謝申し上げます。日本海の沖合底曳網漁、瀬戸内のノリ養殖、カキ養殖もこれから本格的な漁期を迎え、順調に推移することを期待しております。一方、内海の漁船漁業においては、タコ、イカナゴ資源の回復が待たれます。また、豊かな海の再生に向けた取り組みでは、10月の県議会において、窒素・リンの下限基準を設定する条例が可決されました。引き続き、豊かな海の再生のため、ご協力をよろしくお願いします。」と挨拶をし、続いて来賓代表として、県農政環境部農林水産局 石井 龍太郎局長から祝辞がありました。

第44期の事業実績は、高値相場に支えられ、全国2位の結果を残せたノリ養殖や、昭和50年度漁期以降過去最高の漁獲金額となったズワイガニ漁

など好調な漁業のもと、各事業で計画を上回り、事業総取扱高271億6千1百万円、経常利益1億8千2百万円(計画対比1億5千3百万円増)となり、前期に続き、出資配当、事業分量配当を提案することが出来ました。

44期事業報告、45期事業計画等上程した6議案は全て可決承認されました。45期においても、漁業者が安心して沖に行けるよう、役員一同今後引き続き、漁業の発展に取り組んで参ります。

(文：JF兵庫漁連)



兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会



JFグループ兵庫県水産政策協議会（田沼 政男会長）は兵庫県水産振興議員連盟（永田 秀一会長）との共催により12月9日（月）、神戸市のホテル北野プラザ六甲荘において、『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』を開催し、兵庫県・井戸 敏三知事、金澤 和夫副知事をはじめ、県会議員とJF組合長、系統団体役職員の約110名が参加しました。

この懇談会は、水産資源の減少並びに漁業後継者の減少、漁場環境の変化など漁業者だけでは解決できない課題が山積する中、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とするを目的として毎年開催されています。今年もテーマとして『豊かな海の実現に向けた県条例の一部改正について』を、兵庫県農政環境部環境管理局・菅 範昭局長が説明され、続くテーマ2は、『特定技能外国人制度などについて』と題して、JF全漁連漁政部・三 次 亮次長より話題提供が行われました。

その後、両テーマについて質疑が行われ、とりわけ、前者のテーマに関連して、今回の豊かな海の実現に向けた条例改正の趣旨等がどの程度一般県民に理解され、浸透しているのかなどについて活発な意見交換が行われました。

懇談会の終了後は、県議の方々とJF組合長との情報交換会が開催され、当日の講演テーマをはじめとして地域が抱える問題等について活発に意見や情報交換がなされ、会議は盛會裡のうちに閉会となりました。

第1回乾のり入札会を開催 宮内庁へノリを献上!

本格的な冬の到来を感じさせる季節となり、全国各地ではノリの入札会（共販）が始まっています。

全国有数のノリ生産量を誇る兵庫でも、JF兵庫漁連（田沼 政男会長・JF林崎）が、12月11日（水）には第1回共販をJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）で開催し、ノリ入札商社37社の約100人が集まり、見本のノリを手に次々に品定めをするなど、共販会場は活気に包まれました。



この日挨拶に立ったJF兵庫漁連田沼政男会長は「臨時共販であつた今回を第1回目共販として開催することが出来ましたが、皆様に期待される数量の生産に全力を注ぎたい」と挨拶しました。続いて、兵庫海苔入札指定商組合 松谷 晃理事長（松谷海苔株式会社）は「館内の禁煙化など、兵庫は先進的に取り組んでいる。兵庫ノリの生産量が全国の2割を占める現状から、本年度も高品質なノリの潤沢な生産を望んでいる。」と生産に期待を寄せられました。

今漁期の入札会は全15回が予定されており、最終共販日は5月8日（金）となります。いよいよ始まったノリ養殖。今漁期の順調な生産と安全操業を祈念いたします。また、本年度の宮内庁への献上ノリを決める審査会が、第1

（第1回乾のり入札会：結果）

共 販 枚 数	1,434万枚
共 販 金 額	1億9,104万円
平 均 単 価	13円28銭
最 高 値	17円39銭



松谷理事長



挨拶に立った田沼会長

回共販同日に同漁連のり流通センターで行われ、田沼会長ら審査員により、候補のノリを色・艶・味などの項目で評価し、極上のノリが選ばれました。このノリは、毎年漁連会長の手で宮内庁に献上しており、19日（木）、田沼会長により宮内庁に持参献上されました。

令和元年度「ひょうご海の子作品展」 作文部門 受賞者決定!!

JF兵庫漁連とJF兵庫女性連は、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育てるため、「ひょうご海の子作品」(絵画・作文)を県下の小中学生を対象に募集し、作文152点、絵画2,031点のご応募をいただきました。

11月26日に絵画部門、11月28日に作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定いたしましたので、その一部をご紹介します。(絵画部門は12ページに掲載しています)

【作文部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	川西市立川西北小学校	3	杉森 大遥	プラスチックのゆくえ
兵庫県教育長賞	淡路市立学習小学校	6	阪上 菜穂	おいしい魚を食べるために
JF兵庫漁連会長賞	南あわじ市立辰美小学校	3	竹谷 海璃	ぼくのすきな海
	明石市立錦浦小学校	4	松本 望紀	ぼくの大好きなイカナゴ
JF兵庫女性連会長賞	たつの市立室津小学校	3	高木 乃愛	大切な海
	淡路市立学習小学校	6	井筒 雛那	私達にとって大切な海
JFなぎさ信漁連理事長賞	淡路市立学習小学校	5	岡田 琉聖	自然豊かな海に
	明石市立野々池中学校	2	吉田 隼人	海の大切さ
農林中央金庫大阪支店長賞	明石市立明石小学校	3	三木 遙華	すてきな海
	淡路市立塩田小学校	5	中川 莉来	海の歴史

※紙面の都合上、佳作は紹介しておりません。

- ・JF兵庫漁連HPで、兵庫県知事賞と兵庫県教育長賞の作文を掲載予定!
- ・2月下旬頃に、優秀作品を掲載した“ひょうご海の子作品集”を発刊予定です。

＜兵庫県知事賞＞

プラスチックのゆくえ

川西市立川西北小学校 3年 杉森 大遥

少し前にファミリーレストランに行ったらジュースのストローが無くなっていました。スーパーで安い物を買ったら、ビニールぶくろが一枚五円もした。前はただでもらえたのに、どうしてお金がかかるんだろうかと思っていたら、インターネットニュースを見ていたお母さんがおどろきながら言った。

「北きよくの雪にマイクロプラスチックが入っているんだって!」

マイクロプラスチックは五ミリより小さなプラスチックのかげらで、風で空高くまき上げられて雨や雪の中にもまきつけて地面にふっつくる。ヨーロッパの国では前で見つかったけれど、北きよくで発見されたのははじめてで、これはとても大変なことだと書いてあった。

別のニュースでは、クジラやイルカなどの海にすむ大きな生き物が死んだ時、体を調べてみると、お腹の中からたくさんさんのゴミのかたまりが出てきたと言っていた。

海に流されたプラスチックゴミはくさってなくなることがないから、ずっとそのまま残ってしまう。それを海の生き物が食べてしまい、消化ができなくなってしまうそうだ。

それと同じようなことを王子動物園で見たことがある。ふれ合いコーナーで放しがいのがやぎや羊が死んだ時、お腹の中にたまっていた物がてん示されていた。コンビニのビニールぶくろ、おかしつぶくろ、ペットボトルのふたなど。入園者が落としたり、手に持っていて動物に取られてしまった物だ。だから、ふれ合いコーナーに入る時には、手に物を持たず、かばんに直すようにかばんに書かれていた。だから、ぼくは動物園の中で気を付けていければいいと思っていた。

だけど、ぼくが公園で捨てたり、落としたゴミが風によって川に落ちる。流れる水は海につながっている。そのゴミを海の生き物が食べて死んでしまふんだ。ぼくのふだんの生活が、しぜんの中で生きていくたくさんの動物や魚たちを苦しめている。

このままではいけない。プラスチックをへらさないと、いつか海の生き物がぜつめつしてしまうかもしれない。

だけど、ぼくのまわりにはプラスチックがたくさんある。下じきやものさし、道具ばこ、リコーダーや絵の具セット。他にも無くすることができない物がある。

それなら、ぼくにはできることは何だろう。ビニールぶくろはもうわないようにすること。外でゴミを捨てないで、家に持ちかえって分別すること。ペットボトルをへらすために水とつをもち歩くこと。物をこわさず、少しでも長く使えるように気をつけること。

ぼく一人ですることには、あまり多くないけれど、大切ないのちを守るために、今できることをしっかりとつづけたいと思う。

地域ぐるみでの 特産物振興

JA丹波ひかみは、地域の特産物である丹波大納言小豆を振興するため、平成26年に県や市と連携して「丹波大納言小豆ブランド戦略会議」という組織を結成しました。組織内では生産支援や食文化の定着など、目的ごとに部会を結成して、地域ぐるみで特産物の振興を進めています。

丹波大納言小豆は生産量が天候に大きく左右されやすいことや、生産する上での労力の負担が大きいことなどから、消費者の実需に応えきれていないという課題があります。安定的な生産に向けて戦略会議の生産部会では、作業の負担軽減をする取り組みや技術指導で、生産者への支援を行っています。

また、地元での特産物への理解が十分ではないことも課題の一つです。そこで、食文化定着部会では、食農教育やイベントでのPRを通じて、地域住民の特産物への理解を深める活動を行っています。地元の小中学生には、特産物に対する愛着を持ってもらうために、平成28年度から年に数回、学校給食に丹波大納言小豆を使用したメニューを提供しています。また、地域のイベントである「たんぱルシェ」への出店や、地元でぜんざいを扱う30店舗の飲食店と協力して「丹波大納言小豆ぜんざいフェア」を実施するなど、消費者へのPR活動にも力を入れています。

今後も、地域が一体となって丹波大納言小豆ブランドの強化に取り組みを進めます。



学校給食でぜんざいを食べる児童と丹波大納言小豆の生産者

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

2019年度 第2回

「保健・医療・福祉研究会」 講演会 開催

講演テーマ：

「イタリアの社会的協同組合から学ぶ
～日本の協同組合の役割を考えるヒントとして～」

- 第1部「排除と闘うイタリアの社会的協同組合」
- 第2部「様々な協同組合がコミュニティに根付く流れ
～コミュニティ協同組合とは何か」
- 第3部「日本にどう活かすか」

今年度の保健・医療・福祉研究会では、「あらためて“協同組合”について詳しく知る」ことを目的に、11月19日(火)、長野県高齢者生活協同組合の田中夏子理事長を講師にお迎えし、講演会を開催しました。

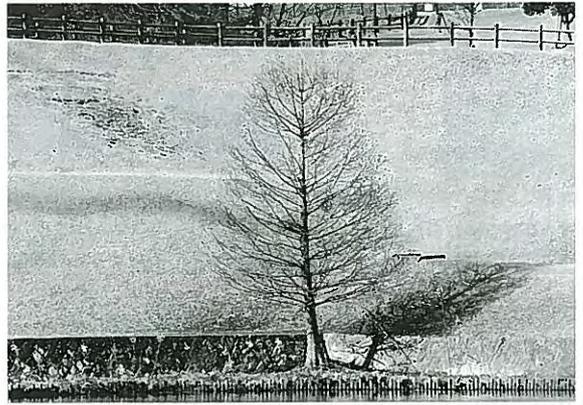


長野県高齢者生活協同組合
田中 夏子理事長
(前 日本協同組合学会 会長)

講演は、イタリアの事例をもとに、それぞれの協同組合の成り立ちや発展の仕方についてお話しいただきました。イタリアでは地域間格差が大きく、地域ごとでの協同組合のあり方が異なっていることがよくわかりました。国家財政が厳しい中、相次いで震災にも見舞われたイタリアにおいて広がっている社会的協同組合やコミュニティ協同組合の位置づけ・果たしている役割等を知ることができました。また、長野県高齢者生活協同組合(かがやき)の活動や取り組みを参考に、「これからの日本の協同組合が果たすべき役割」について学ぶ機会となりました。日本においても、地域性や組合員の思いを考慮し、これからの協同組合のあり方を考えていかなければならないと強く感じました。



<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

おいしい水と名水百選

◆「灘は酒処」といわれるのは良い水が出るからで、兵庫の誇りでもある。六甲山の湧水《宮水》と京都《伏見の御香水》は共に酒造りの名水として知られる。「名水あるところ銘酒あり」と言われる所以でもある。宮水が酒造に最適といわれるのは、硬度が高くリン酸とカリウムの含有が多く、鉄分が少ない事で、リン酸が麹や酵母の繁殖を助け、カリウムは酵母の養分になる。そして着実に醗（もろみ）の発酵を促すから、しっかりと辛口の酒が醸し出せる。伏見の御香水は軟水であるため、発酵するのが遅く、甘口の酒になるそうだ。

◆江戸期、明石市西部の江井島辺りは、浜手を灘と呼んで酒造りが盛んだった。地名に「井」が付くように良い水が出る。良い水は、酒造りに欠かせられぬ条件で、古くから酒を造っていたという。瀬戸内海の温暖な気候と、冬の季節風が酒の仕込みに良く「灘の酒」として知られていたが、神戸の灘が全国的に著名となったため、紛らわしいので西灘と呼ぶように変わった。天明八年の記録に江井島に十四軒の酒造所あり、それを積み出すために港を改修したとある。また明治期の『西撰大観』には明石の特産品の第一が清酒と記載されている。

◆一九八五年、環境庁が水質保全活動の優れた所を選んで《名水百選》を発表した。それを紹介したビデオもあって観光客の誘致にも貢献したようだが、名水＝飲用水では無く、自治体が飲用不適当と表示する名水もあったので、洞爺湖サミットを契機に湧水や地下水を基準とした《新名水百選》を選出した。豊富な地下水に恵まれている熊本や富山県は、四ヶ所ずつ選ばれている。そのままを飲んで美味しいか不味いかは、含有成分にもよるし、旨さは個人差があつて一概にはいえない。以前に「富士山」の頂で湧水に触れた。富士山麓で湧水群が、流れを作っている《柿田川》は、東洋一を誇る名水だと評判が高い。

◆八ヶ岳の山麓にも伏流水の湧き出る地域がある。生活用水や農業用水に利用している。田畑への配水は死活問題だから水争いの源となり易いが、均等に配分できる分岐水路が設けてあり、これは武田信玄の発案ともいう。仲良く作法を守って使うべしという武将の知恵が感じられる。昔、新潟県柏崎市で塩を買えない貧しい女性が居た。それを助けようと弘法大師が杖で地面を叩いて塩水を出した「弘法大師の塩水井戸」という伝説である。大師が指示をして掘削した井戸というものが全国で千三百箇所も伝えられている。明石では二見に小さな弘法の井戸があり、明石川に沿う岩岡への道にも大師の井戸という導標が出ている。

大輪田塾だより

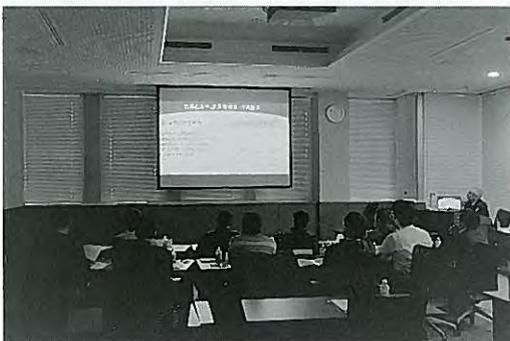
「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業」と「JF兵庫漁連の事業概要」

12月17日（火）、大輪田塾が開講されました。

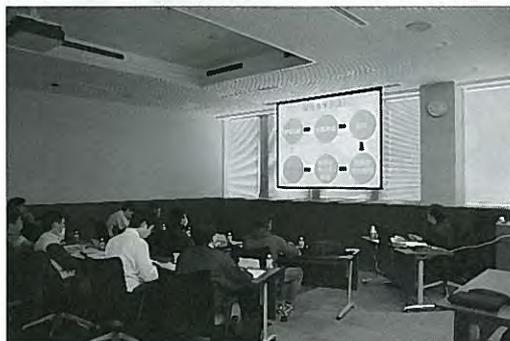
第1部の「ひょうご豊かな海づくり協会の概要と栽培漁業」では、ひょうご豊かな海づくり協会 藤澤 崇夫副理事長が同協会の成り立ちや事業概要説明のほか、栽培漁業に関わる法制度や基本方針、種苗生産の効果評価や新規種苗生産や量産技術開発について説明しました。

第2部の「JF兵庫漁連の事業概要」では、JF兵庫漁連 田中 稔彦参事が講師を務め、JF兵庫漁連の様々な経済部門活動や指導事業の活動内容、リース事業などの補助事業について話されました。

塾生は、放流種苗の効果、地元青壮年部での種苗中間育成の実施や補助事業の申込について、活発に質問しながら意見交換しました。



JF兵庫漁連 田中参事の講義



豊かな海づくり協会 藤澤副理事長の講義

令和元年度「ひょうご海の子作品展」 絵画部門 受賞者決定!!

9ページに掲載しています「ひょうご海の子作品展」の絵画部門で入選した皆さんをご紹介します。

【絵画部門】

(敬称略)

賞名	学校名	学年	氏名	題名
兵庫県知事賞	洲本市立洲本第二小学校	3	久保田弓月	大りょう
兵庫県教育長賞	神戸市立神戸祇園小学校	1	徳廣 綾乃	いちばのせり
JF兵庫漁連会長賞	明石市立花園小学校	4	松本 彩希	いっぱいとれたヨ!生新子♪
	神戸市立こうべ小学校	6	長尾 優	大漁
JF兵庫女性連会長賞	神戸市立東舞子小学校	1	山本 結愛	お魚たくさん地引網
	明石市立王子小学校	3	西畑 夢菜	たくさんとれたよ
JFなぎさ信漁連理事長賞	明石市立山手小学校	4	吉川 依里	漁師さん、おいしいお魚ありがとう
	明石市立大久保南小学校	6	田中 志歩	明石のタイの漁
農林中央金庫大阪支店長賞	神戸市立竹の台小学校	1	向 椰緒	うおのたなのさかなやさん
	神戸市立神戸祇園小学校	2	松本 総司	青い服の人たち

※紙面の都合上、佳作は掲載しておりません。

○ JF兵庫漁連HPでも受賞作品を掲載予定! (<http://www.seat-sakana.net/>)

<兵庫県知事賞>

大りょう

洲本市立洲本第二小学校 3年

久保田弓月さん

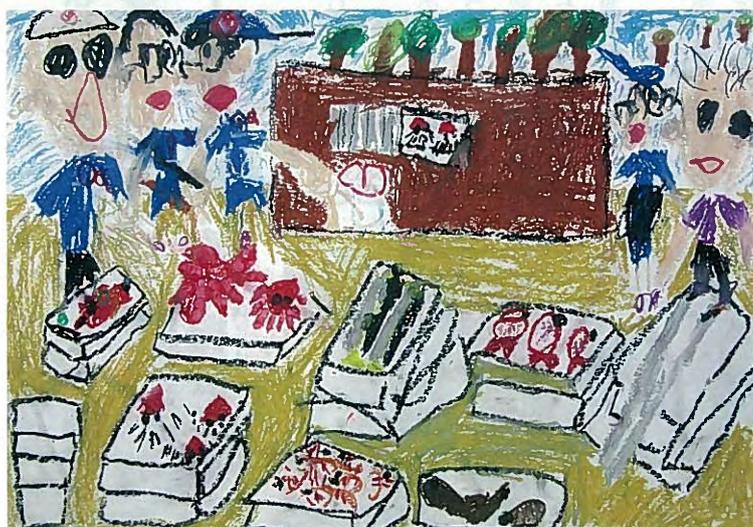


<兵庫県教育長賞>

いちばのせり

神戸市立神戸祇園小学校 1年

徳廣 綾乃さん



○ 令和元年12月8～9日にかけて明石市立
勤労福祉会館にて受賞作品の展示会を
開催いたしました

